

自立活動オリエンテーションスライド(子ども向け)

～ 活用の前に ～

このスライドは“子どもに合わせて自由に変えていただく”ことを前提に作成しています。
目の前の子ども達に適した形にアレンジして、ご活用ください。



伝えるより“**対話**”する気持ちで

子どもの反応を拾いながら進めると理解が深まりやすい



子どもの答えは“**全部肯定**”する姿勢で(共感・共有)

「いいね」「気づいているのがすごいね」などの受け止める姿勢は、関係性が深まる



先生のちょっとした“**自己開示**”は安心につながる

好き・苦手を少し話すだけで、子どもが心を開きやすい



説明量は“**子どもの理解のペース**”に合わせて調整する

口頭を増やす／短くする／板書を足す など

クイズ形式にしたり、おもちゃのマイクを用意してみたり…。

いろいろ試しながら、子ども達のがってくる方法を探ってみるのも、楽しそうですね♪





じりっかつどう

自立活動って、なあに？



★ポイント

- ①特別支援学級には、国語や算数などの教科に加えて、自立活動の時間があるということを確認する。
- ②「自立活動って、どんなイメージがある？」
「机に座ってする学習とはちょっと違うけれど、遊びではなくて大切な勉強の時間だよ」
→ 遊ぶための時間ではないこと。
教科の補充や、生活スキルを身につけるための練習とも違う。
- ③「では、どんなことをする時間なのか、一緒にのぞいてみよう！」



じかん
どんな時間？

じぶん
自分のことを
し
知る時間だよ。



いま
今よりも、もっと
カッコいい自分に
なるための時間！

自分の“いいね”
をふやす時間。

★ポイント

小さな成功体験を積む時間。

→ 「自分のいいところを見つけて、少しずつ増やしていくよ」と伝えると、子どもが前向きに取り組みやすい。

じぶん し
自分のこと、知ってるかな？

せんせい
先生の好きな
ことはね…



きみは、
どんなことが
好き？



★ポイント

- ①「ところで、みんなは自分のことをどのくらい知っているかな？」
「まずは、自分の好きなこと、好きなどころについて思い浮かべてみよう」
 - ②「先生も同じ人間だから、得意・不得意があるよ」ということが伝わればOK!
→ 教師側からの自己開示もあり。
 - ③クイズ形式(3択・〇×)で紹介すると、惹きこまれやすい子どももいる。
- ※ 自立活動は“個に応じた支援”が大切なため、挿絵は「先生1人:子ども1人」の構成にしているが、子どもによっては、スライドに登場する人物の性別や雰囲気、自分や担当の先生と異なることで違和感を覚え、気持ちが向きにくくなる場合がある。その際は、イラストを変更したり、子どもにわかりやすく説明したりするなど、個に合わせた工夫が必要。

もっと、知^してみよう！

せんせい

先生のがてな
ことはね…



きみも

にがてなこと
ってある？



★ポイント

①好きなことの次は、苦手な事について考えてみる。

「では、逆に苦手なことってあるかな？」

「困っていることでもいいよ」

②教師側の自己開示の中に、子どもの実態と重なるような部分が入っていると、後の援助要請を求めるスライドの部分で、話がしやすくなる。

例) 「先生は、子どもの頃、大勢の前で話すことが苦手だったんだ」

「狭い所で何かしなければならぬ時に、どきどきすることがあるよ」

みんな、ちがっていいんだよ



★ポイント

- ①先生もみんなもそれぞれちがうということ。
- ②どんなに苦手なことがあっても大丈夫。→「できない」=「だめ」ではない。
- ③ちがいは、その人らしさ。→「よく口に出して教えてくれたね。ありがとう。」

でも、
ちょっとだけ

レベルアップしたいよね



★ポイント

- ①「今の自分よりも『かっこよくなりたい』『成長したい』って思えるのは、とっても素敵なことなんだよ」
 - ②「実は、先生もこんなことができるようになりたいって思っているんだ」と自己開示してもよい
- 子どもの安心感に

じぶん
どんな自分になってみたい？

ともだちと
なかよくしたい



お
一人で起きられる
ようになりたいな

おこられないよう
にしたい



★ポイント

①子どもから、なりたい姿のイメージを引き出す

→ 「どうなったら嬉しい？」

②出た意見は否定せず、全て受け止める

→ 「素敵な願いだね」「すごいね、そんなことにも気が付いているんだね」

③「自分でお金をためて、お買い物してみたい人は？」

「怒りん坊じゃなくて、やさしくなりたい人は？」

「お料理が上手になりたい人は？」

などと教師がいくつか問いかけ、挙手してもらう方法もある。

その場合、自己調整に関するものや、一人一人の中心課題に近いものを提示すると、子どもが自立活動についてイメージしやすくなる。

④癩癩が課題の子どもでも、自己理解が十分でない段階では「怒りん坊をなおしたい」という自己調整の視点は持ちにくい。

→ 代わりに、「怒られないようにしたい」という、他者の反応を基準にした言葉が出てくることがある。

ねが すてき
どの願いも、素敵でかっこいい!



かなえる
ための

ひみつの
かぎ
鍵は…

★ポイント

- ①「自立活動を頑張って、今よりかっこいい自分になろう」
- ②「きっとできるよ。先生も一緒に考えるよ」

かっこよくなる“^{かぎ}鍵” その1



こまった
ときは…



たすけ をもらう!

★ポイント

- ①誰にでも、困る場面はある。
- ②一人で、がんばりすぎなくてよい。
→ 「鉄棒をしている男の子は、逆上がりの練習を手伝ってほしいことを伝えたら、便利な道具を貸してもらえたよ。」
「本を読んでいるこの子は、漢字の読み方がわからないことを伝えたら、先生が来てくれたよ」
- ③助けを求めることも、かっこいい自分になるための一つ。
→ 自立とは「周りに助けを求められること」
- ④助けを求められたら、支援者は小さなことでも必ず何か返す。
→ 子どもの安心感につながり、今後も援助要請がしやすくなる。
- ⑤手助けの方法も様々ある。
例) 側で手を添え一緒に行く、本人が一人でも取り組めるアイテムの紹介、言葉での勇気づけ。

とき
たすけ をもらう時には

〇〇が
できなくて、
こまっています



ことば^{つた} で伝えてね 😊

★ポイント

SOSの言語化。

→ 「手や足が出たり、ずっと泣いていたったりしたら、何で困っているのか、わかってあげられないよ」

「言葉で教えてくれたら、力になることができるよ」

かっこよくなる“^{かぎ}鍵” その2



じぶん えら **自分で選ぶ** ってすごいこと!



★ポイント

- ①自分の気持ちを大事にしている。
→ 「自分で選ぶと、やる気がでるよ」
- ②いろいろ試しながら、自分に合うやり方を見つけることが大切。
→ 「この男の子(スライド)は、ノートに書くかタブレットに打ち込むか、自分で考えて決めているよ。」
「自分で決めたから、いい顔をしているね」
- ③選んだ結果がうまくいかなくても、やり直せる。

えら かつ ひと
選ぶ方は、一つじゃない

先生が
しょうかいするよ



★ポイント

- ① 0か100かで考えやすい子は、選択肢を思いつきにくい。
→「これしかない」と感じてしまい、決めること自体が負担になる。
- ② 大人が3~5パターンの選択肢を提示する。
→「A・B・Cの中から選んでみようね」と具体的に示す。
→どれを選んでもOKという安心感をつくる。
- ③ 子どもが選びやすい形にする。
→口頭で伝わりにくい場合には、文字・絵カード・写真・実物なども活用。
「どれがいい？」ではなく「この3つの中ならどれがやりやすい？」
と聞く方がよい場合も。
- ④ “どれを選んでも間違いじゃない”というメッセージを伝える。
→「あなたが選んだことを先生は応援するよ」

例えば・・・

・子供が朝会に参加したくないと言っている時

- 選択肢1「安心できる友達の隣りに座る」 2「体育館の後ろで見ている」
3「体育館の2階から見る」 4「廊下から見る」
5「時間を決めて参加」 6「後から、動画を見る」 など・・・

かっこよくなる“^{かぎ}鍵” その3



★ポイント

- ①「不安もあるよね」
「はじめてのことって、ドキドキするよね」
→ 寄り添う言葉。
- ②「先生がサポートするから大丈夫だよ~!」
→ 安心につながる言葉。
- ③「挑戦してみることがすごいんだよ!」
「失敗しても大丈夫!」
→ 結果より、過程を価値づける。

せんせい おうえんだん
先生は応援団



★ポイント

①「怒りをしずめる作戦」

「順番を待てるようになる作戦」

「お友達ともっともっと仲よくなる作戦」

→「先生は、うまくいく方法が見つかるまで、何度でも一緒に考えるよ」

②トライ&エラー

→ いろいろ試してみて、本人に合ったものが、その子の正解。

③自立活動は、自分の心を大事にする時間。

→「自分に合う方法を、ゆっくり見つけていこう」

しばい

失敗しても、だいじょうぶ!



やってみたこと
がすごい!



★ポイント

- ①失敗した経験も、必ず成長につながっている。
→ 「挑戦してみたことが、えらい!」
「すでに、かっこいい自分の芽が出ているよ」
- ②失敗の例をあげてみるとわかりやすい。
→ 「怒って、プリントをぐちゃぐちゃにしちゃった」
「うまくいなくて、ドアを思い切りキックしちゃった」

うまくいかない
ときは…

あたら

新しいチャレンジを

イライラしたら

しんこきゅう

深呼吸…



ぼくには

あ
合わなかったな

じぶん き

自分で決めていいんだよ



★ポイント

①自立活動は、自分の心を大事にする時間。

→ 「どの作戦にするのか」

「その作戦が正解だったのかは、自分で決めていいんだよ」

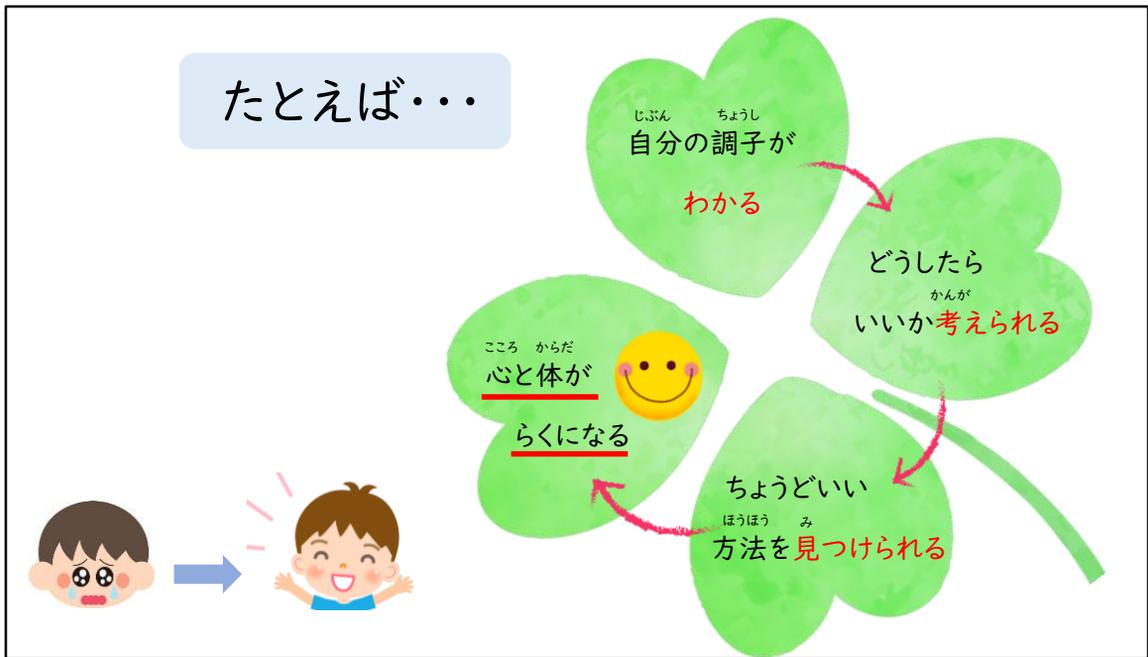
② 「この作戦、合わなかったな」という時は、新しい作戦を考えれば大丈夫！」

→ 「何回も挑戦するごとに、どんどんかっこよくなっていくよ」



★ポイント

- ① 自立活動をがんばると、心や体のようすに気付いて、自分でバランスをとることができるようになる。



★ポイント

例をあげて説明すると、わかりやすい。

- ・自分の調子がわかる。
- 「計算練習をがんばってきて、そろそろ疲れてきたな」
- ・どうしたらいいか考えられる。
- 「イライラする前に、ちょっとだけ息抜きをしよう」
- ・ちょうどいい方法を見つけられる。
- 「先生に『5分タイマーを持って、中庭に行ってもいいですか』って言えた」
- ・心と体がらくになる。
- 「5分でリフレッシュできたし、時間を守って先生にもほめてもらったぞ」

これ、
ぜんぶ

じりつかつどう ちから
自立活動の力

わからないって
いえた



やす
ちょっと休もう
ってきめた



ともだちに
きいてみた



★ポイント

- ①「自立活動は、全部の勉強、お家での生活にもつながっている力なんだよ」
- ②スライド上の3つの吹き出しに対し、それぞれ経験があるかどうか聞いてみる。
例)「わからないことを、『わからない』って言えたことがある人はいるかな？」
→「気付いていないだけで、みんなは、すでにかっこよくなっているんだよ」

ちから
きみには **力** がある!



どんどん

かっこよくなって いこう!

★ポイント

- ①子どもたちの気持ちを前向きにして終わる。
→ 「誰かと比べなくていいんだよ」
「昨日の自分より少し進めたら、それでOK」
「自分の中で、階段をのぼるように少しずつレベルアップしていこう」
- ② 子ども自身が“力を持っている”ことを伝える(自己効力感)
→ 「君にはできる力がちゃんとあるよ」
- ③ 自立活動は“ひとりで頑張る”ではなく、“支えられながら伸びていく”時間
→ 先生のサポートを受けながら成長していく時間
「先生もいっしょに手伝うよ」
「みんなのがんばろうとする気持ちを応援しているよ」